

令和5年度

函館白百合学園中学校

オープン模試

国語

令和5年10月1日(日)実施

注意事項

1. 試験時間は45分です。
2. 問題は□から□まであり、10ページまであります。
3. 答えはすべて別紙の解答用紙に記入し、解答用紙だけ出さない。

□ 一 次の問いに答えなさい。

問 1 次の — 線のカタカナを漢字に直しなさい。

- ① 庭の木のエダを切る。
- ② ソボの家に遊びに行く。
- ③ スクリーンにウツす。
- ④ 文字を書きウツす。
- ⑤ 戸をカイホウする。
- ⑥ 植民地をカイホウする。
- ⑦ 広場にシジ者が集まる。
- ⑧ お正月に実家にキセイする。

問 2 次の — 線のカタカナを漢字と送りがなに直しなさい。

- ① 美しい心をハグクム。
- ② ボールを打ち返せるようにカマエル。

問 3 次の — 線の漢字の読みをひらがなで答えなさい。

- ① けんかの後、先に謝る。
- ② 自慢じまんげに胸を反らす。
- ③ 君の目は節穴か。
- ④ 不燃ふねんごみと可燃くわねんゴミを分ける。
- ⑤ 造花ぞうかをかざる。
- ⑥ 貿易さうかが盛んな港。

問 4 次の読み方をする二字熟語を二つずつ答えなさい。

- ① カンケツ
- ② カンシン

問 5 次の — 線にあたる漢字の総画数を数字で答えなさい。

- ① 争いがオサまる。
- ② 庭に物置小屋をタてる。

問6 次の①～③の意味となる四字熟語を、ア～オからそれぞれ選びなさい。

- ① 経験を積み、世の中のことを知りつくし、したたかなこと。
- ② 大勢の人が、うろたえまごついて混乱すること。
- ③ 自分の都合の良いようにすること。

ア 異口同音

イ 右往左往

ウ 我田引水

エ 温故知新

オ 海千山千

問7 次の（ ）に、下の意味になるように、体の一部を表す言葉をそれぞれ漢字で入れなさい。

- （ ① ）を長くする……待ちこがれること。
- （ ② ）が早い……食物のいたみが早いこと。
- （ ③ ）にかける……他よりもすぐれていることを見せびらかすこと。

問8 次の言葉と意味が似ているものを、ア～オからそれぞれ選びなさい。

① うそから出たまこと

② 豚ぶたに真珠しんじゆ

ア 青菜に塩

エ ひょうたんからこま

イ 歲月は人を待たず

ウ 猫ねこに小判こばん

二 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

「まなぶ」ことは「まねぶ」ことだ。じっさい、このふたつの言葉は語源が同じだ。学ぶことは多くの場合、まねることから始まる。意味もわからずに、ただひたすら師匠の¹所作をまねる。どの動きが重要で、どの動きが関係ないかもわからずに、ただただ同じ動きをする。それはときに「²猿まね」と言われてバカにされる。^①茶道の先生が茶碗を回すと、^②セイトは同じように茶碗を回すが、先生がふと手を頭にやると、同じように手を頭にやる。それは思わず噴き出してしまうほど、滑稽でさえある。しかし、学ぶことは多くの場合、このような滑稽ですらある猿まねから³始まらざる（ ）^③えないのである。

たしかに猿まねをしないで、所作を習得することが可能な場合もある。ひとつの所作が誰にでも可能なくつかの要素に分解できるなら、それらの要素を順に実行することで、その所作を行うことができる。⁴「花」という漢字を書くことは、どの画をどの順に書くかを知れば、この字を書くことができるようになる。先生がこの字を書くのを見て、それを猿まねする必要はない。

しかし、私たちが学ぶ多くの所作は、このような要素への分解を^③ユルさない。逆上がり、^④ホウチヨウでの^⑤カワむき、テニスでのボールの打ち方など、多くの所作は、要素的な動きの組み合わせになっておらず、⁵（ ）よう

（ ）^⑥まねで学んでいくしかない。もちろん、そのような所作もいくつかの部分的な動きに分けることは可能であるが、これらの部分的な動きはその所作を^⑥オコナウたびに^⑦微妙に^⑦コトナリ、^⑧同じというわけではない。自転車に乗ることは、サドルにまたがる、ペダルを踏む、左右のバランスをとるなど、いくつかの部分に分けられるが、それらはいつ自転車に乗っても^⑧同じというわけではない。乗るたびに微妙に異なる。同じ要素を組み合わせさえすれば、自転車に乗ることができるようになるというわけではないのである。

このように要素に分解できない所作は、全体を猿まねして習得するしかない。それはたいへん困難な作業であるが、それを^⑥やらざる（ ）^⑥えない。学習の第一歩として、とにかく模倣は^⑧ヒジヨウに重要である。動物にも模倣の能力があるが、人間はとくにこの能力に長けている。人はやたらと物まねをしようとする。遊ぶときでさえ、物まねをすることがある。

（「覚える」と「わかる」 信原 幸弘）

※出題の都合上、漢字などの表記を改めました。

問1 線①～⑧の片仮名を漢字に直し、また、漢字は読みをひらがなで答えなさい。ただし、⑥⑦は漢字と送りがないに直しなさい。

問2 線1「所作」とほぼ同じ意味のことばを、ア～エから選びなさい。

- ア 創作 イ 動作 ウ 製作 エ 作風

問3 線2「猿まね」について

①「猿まね」は、猿が人の動きをまねるように、考えもなくむやみに他人のまねをすることという意味である。これとほぼ同じ意味となる次の言葉の（ ）に入る漢字一字を、ア～エから選びなさい。

（ ）へならえ

- ア 東 イ 西 ウ 右 エ 左

②「猿まね」と反対の意味となる二字熟語を、後の漢字を組み合わせさせて答えなさい。

製 独 徳 生 成 創

③「猿まね」のように、慣用句の中には動物の名を用いた言葉が多い。次の慣用句が下の意味になるように、（ ）に入る動物の名を答えなさい。

- ア （ ）の手も借りたい……………とてもいそがしく、人手が足りないこと。
イ （ ）のなみだ……………ごくわずかなこと。
ウ （ ）につままれる……………何が起こったかわからずぼかんとすること。

問4 — 線3 「始まらざる（ ） えない」・6 「やらざる（ ） えない」の（ ）に入るひらがな一字を、ア～エから選びなさい。

ア お イ を ウ ほ エ が

問5 — 線4 『花』という漢字を書くことは、どの画をどの順に書くか～できるようにする」について

① 『花』という漢字の一画目、六画目をぬりつぶしなさい。

② 次の漢字の（ ）の中の画をぬりつぶしなさい。

1 希（四画目） 2 方（三画目）

問6 — 線5 「（ ）よう（ ）まね」の（ ）に共通して入る漢字一字を答えなさい。

問7 に入る語を、ア～エから選びなさい。

ア たぶん イ とても ウ きっと エ まったく

三 「学ぶことはまねることから始まる」と述べた□に続く次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

きちんとまねができるようになるには、とにかく試行錯誤しこうさくごを重ねるしかない。しかし、^①やみくもに試行錯誤を重ねるだけでは、まねの習得ですらおぼつかない。師匠の技を見てそのまねをしようとすると、¹それがうまくいったかどうかもわからずに、ただまねっばいことを繰り返すだけでは、おそらくまねの習得は不可能であろう。まねができるようになるには、試しにやってみたことがうまくいったかどうかをわからなければならぬ。それがわかれば、うまくいったときのまねは強化され、そうでないまねは抑制よくせいされて、やがてきちんとまねができるようになる。

では、試しにやってみたまねがうまくいったかどうかは、どのようにしてわかるのだろうか。じっさいにまねをして見たとき、うまくいけば、何となく快い感じがし、そうでないときは、^③ぎこちなく不快な感じがすることがある。このように快／不快が生じる場合は、それがよし悪しを示す信号になる。この信号にもとづいて、快く感じるまねは強化され、不快に感じるまねは抑制される。

しかし、試しにやってみたときに快／不快の感じがまったく生じない場合もある。たとえば、体育の先生のまねをして逆上がりの練習をしているとき、うまくいくかどうかにかかわらず、心地よいとも、心地悪いとも感じないでしょう。このような場合は、先生によし悪しの判断をしてもらうしかない。つまり、うまくいったときは、先生が誉め、そうでないときは、注意する。このような外からの指摘しってきにもとづいて、称賛されたまねは強化され、叱責しっせきされたまねは抑制される。

このように試しにやってみたことにたいするよし悪しの信号や指摘があれば、ふつうまねの学習はよく進む。しかし、²そのような信号や指摘があっても、まねの学習が容易に進まない場合もある。それは多くの部分からなる複雑な技をまねようとする場合である。このような技をまねようとすれば、当然、そのまねも多くの部分からなる。したがって、^①としてうまくいかなかったことがわかって、どの^②が悪かったのかがよくわからないことがある。そうすると、ただやみくもにどこかの部分を変更へんこうして、新たなまねを試みるよりほかなくなる。そうになると、悪い部分はそのままで、良い部分が変更されるといふことにもなりかねない。こうなってくると、学習がなかなか進まないことは、容易にわかるだろう。

たとえば、テニスの練習の場面を想像してみよう。いま、ラケットでボールを打つという動作が、かりにラケットの面の角度、打つ強さ、ラケットの振りぬきという三つの部分からなるでしょう。ボールがうまく打てなかったとき、

その原因は三つの部分のいずれか、あるいはそれらの組み合わせにある。しかし、うまく打てなかったという動作全体の悪さしか感じ取れないとすると、どの部分が悪いかがわからず、やった動作を修正しようとしても、ただやみくもに三つの部分のいずれかに変更を加えることしかできない。しかし、動作全体の悪さだけでなく、それぞれの部分の良し悪しも感じ取れるとすると、悪い部分を変更して良い部分をそのままにすることが可能となり、学習の効率は大幅に上がる。

複雑な技をまねる場合は、全体の良し悪しだけでなく、各部分の良し悪しも感じ取れることが望ましい。それが、感じ取れば、³ 複雑な技であっても、模倣の学習は効率的に進む。そうでなければ、学習は困難をきわめる。先生から指摘を受ける場合でも、どこが良く、どこが悪いかを言ってもらえず、ただ全体として良い、悪いと言われるだけでは、学習はなかなか進まない。もともと、先生のほうも、けっして意地悪なわけではなく、技をいくつかの③にうまく分けることができないため、④として評価するほかないのかもしれない。このような場合は、先生の技をまねるのに何年もかかるのも致し方ないことであろう。

（「覚える」と「わかる」 信原 幸弘）

※出題の都合上、漢字などの表記を改めました。

問1 〓線①～③の本文中の意味としてもっとも適当なものを、ア～エからそれぞれ選びなさい。

① やみくもに

- ア 見通しもつかないままに
- イ 何度も何度もくり返して
- ウ あきらめずにこつこつと
- エ やめられない様子で

② おぼつかない

- ア なんとなくわからない
- イ もったいない
- ウ めったにない
- エ うまくいきそうにない

③ ぎこちなく

- ア 見ていられない感じがして
- イ 未熟で不慣れな感じがして
- ウ 思い切りが悪い感じがして
- エ やりきれない感じがして

問2 — 線1 「それ」とは何か、本文中の言葉を使い、十字以内で答えなさい。

問3 — 線2 「そのような信号や指摘」について説明した次の文章中の（ ）に入る言葉を本文中から書きぬきなさい。ただし、それぞれ指定の字数で答えること。

じっさいにまねをしてみたとき、うまくいけば（ア 二字）感じがし、うまくいかないときは（イ 三字）感じがすることがある。この感じ方が、（ウ 八字）まねの（エ 四字）を示す「信号」である。また、快／不快の感じがまったく生じない場合に必要なのは、うまくいったときは（オ 二字）され、そうでないときは叱責されるというような、他者からの「指摘」である。「指摘」は他者による（カ 一）の判断にもとづく。

問4 ① ～ ④ に入る語の組み合わせとしてもっとも適当なものを、ア～エを選びなさい。

	①	②	③	④
ア	全体	全体	部分	全体
イ	全体	部分	部分	全体
ウ	部分	全体	部分	部分
エ	部分	部分	全体	部分

問5 — 線3 「複雑な技であっても、模倣の学習は効率的に進む」とあるが、「複雑な技」の「模倣の学習」が「効率的に進む」にはどのようなことが必要か、六十字以内で説明しなさい。ただし、次の二つの言葉を用いること。

まね 複雑な技

問6 本文の内容として正しいものを、ア～オから二つ選びなさい。

ア 先生の技をまねようと試行錯誤する中、自分でうまくいったとわかったこと、先生に誉められたことが定着し、やがてまねの習得につながっていく。

イ 技のまねの習得は、どんな技でもおおざっぱにまねることを大切にし、どこが良くどこが悪いかを見極める判断は自分でせずに、先生にまかせた方がよい。

ウ テニスの技を習得する時、テニスは様々な動作が組み合わされていると意識し、それぞれの動作ができたかできていないかわかると適切な修正ができる。

エ 先生に誉められた経験は心地よく、認められたという快い感じによって学習する意欲がどんどんわくだけでなく、周囲の人にその学びを広げたいくなる。

オ うまくまねができなかったことへの先生の注意を、不快だとも、ありがたいとも感じなければ、先生の技をまねるのに何年もかかってしまうことになる。

国語

解答用紙

受験番号

名前

一

問 1 ① エタ ② ソボ ③ ウツ ④ ウツ

⑤ カイホウ ⑥ カイホウ ⑦ シシ ⑧ キセイ

問 2 ① ②

問 3 ① る ② らす ③

④ ⑤ ⑥

問 4 ① ②

問 5 ① ②

問 6 ① ② ③

問 7 ① ② ③

問 8 ① ②

二

問 1 ① 茶道 ② サイト ③ ニル ④ ホウチヨウ

⑤ カウ ⑥ ⑦ ⑧ ヒシヨウ

問 2 問 3 ① ② ③ ア イ ウ

問 4 問 5 ① 一画目 ② 六画目 ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧

① 花 ② 花 ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧

① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧

三

問 1 ① ② ③

問 2

問 3 ア イ ウ エ

オ 問 4

問 5

問 6

国語

解答用紙

受験番号

名前

一

- 問 1 ① 枝^{エダ} ② 祖母^{ソボ} ③ 映^{ウツ}す ④ 写^{ウツ}す
- ⑤ 開放^{カイホウ} ⑥ 解放^{カイホウ} ⑦ 支持^{シジ} ⑧ 帰省^{キセイ}
- 問 2 ① 育お ② 構える
- 問 3 ① あやま^る ② そ^{らす} ③ ふしあな
- ④ ふねん ⑤ ぞうか ⑥ ぼうえき
- 問 4 ① 完結 ② 簡潔 ③ 関心 ④ 感心
- 問 5 ① 4 ② 9 問 6 ① 才 ② イ ③ ウ 問 7 ① 首 ② 足 ③ 鼻
- 問 8 ① エ ② ウ 各①

30

二

- 問 1 ① さど^{茶道}う ② 生徒^{サイト} ③ 許^{ユル}さない ④ 包丁^{ホウチヨウ}
- ⑤ 皮^{カウ} ⑥ 行^ウう ⑦ 異^{ヒシ}なり ⑧ 非常^{ヒシヨウ} 各①
- 問 2 イ 問 3 ① ウ ② 独^ア創^イ ③ ねこ^ウ ④ すずめ^ウ ⑤ きつね 各②
- 問 4 イ ② 問 5 ① 花^{一画目} ② 花^{六画目} ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿ 各①
- 問 6 見^ウ ② 問 7 工^ウ ②

30

三

- 問 1 ① ア ② エ ③ イ 各② 問 2 師匠の技のまね
- 問 3 ア 快^イい ① 不^ウ快^エな ② 試^エしにやっ^エてみ^エた ③ 良^エし悪^エし
- オ 称^オ賛^オ 各③ 問 4 イ ③
- 問 5 多くの部分からなる複雑な技のまねにおいて、まねの全体の良し悪しだけでなく、各部分の良し悪しを感じ取れること。 ⑦
- 問 6 ア ウ 各③

40

令和5年度

函館白百合学園中学校

オープン模試

国語 解答・解説

令和5年10月1日(日)実施



一

問1 漢字の書き取りの問題

いずれも基本的な漢字であるが、訓読みの漢字の書き取りは正答率が低い傾向にあるので、送りがないも意識して学習すべき。同音異義語、同訓異字にも注意したい。

問2 漢字の送りがないもふくめた書き取りの問題

訓読みの漢字は送りがないに気をつけて覚えたい。

送りがないは、用い方によって語形が変化する部分を送るのが原則。

例えば、「話す」は「話さ(十ない)」「話し(十ます)」のようになるので、変化する語尾「さ・し・す」が送りがないとなる。

ただし、「話します」は動作を表現する言葉(動詞)で用い方によって語形が変化するので送りがない「し」が必要であるが、「先生の話」の場合は名詞(ものの名前を表す言葉)であるので送りがないは必要ない。

①「ハグクム」は、「はぐくま(十ない)」「はぐくみ(十ます)」となるので、送りがないの原則通り、変化する語尾を送る。

②「カマエル」は、「かまえ(十ない)」「かまえ(十ます)」となり、①のような変化はないが、語尾が「くeる。」となる語(他には「受ける」「食べる」など)は「e」の音から送りがないとなる。また、語尾が「くiる。」となる語(例えば、「用いる」「起きる」など)は、「i」の音から送りがないとなる。

問3 漢字の読みの問題

訓読みや、複数の読みをする漢字にも注意したい。

問4 漢字（同音異義語）の書き取りの問題

いずれも基本的な同音異義語。

① 簡潔・完結 など ② 関心・感心・歓心・寒心 など 「関心」は「関心を示す」、「感心」は「感心な生徒」のように使う。

次のような同音異義語も覚えたい。

以外	意外	衛生	衛星	解答	回答	家庭	過程	仮定	感染	観戦	正確	性格	
機会	機械	公園	講演	公演	消化	消火	生産	精算	清算	対象	対照	対称	など

問5 漢字の画数の問題

① 争いが収まる ② 庭に物置小屋を建てる
のように漢字で書く。特に②「建」は部首の「えん」が三画であるのでまちがえやすい。

問6 四字熟語の問題

選択肢の中で解答とならなかったア「異口同音（いくどうおん）」は「多くの人が口をそろえて同じことを言うこと」、エ「温故知新（おんこちしん）」は「過去に起こった出来事や教えをよく調べて学び、そこから新たな知識を得ること」という意味である。

オ「海千山千」のように漢数字を使った四字熟語も多い。

漢数字を使った四字熟語（特に「一」を使ったもの）は多いので意識して学習したい。次の四字熟語の意味も調べてみよう。

七転八倒	（しちてんぱつとう）	十人十色	（じゅうにんといろ）	四苦八苦	（しくはつく）
千差万別	（せんさばんべつ）	一心同体	（いっしんどうたい）	一世一代	（いっせいいちだい）
一石二鳥	（いっせきにちよう）	一期一会	（いちごいちえ）	一部始終	（いちぶしじゆう）
一日千秋	（いちじつせんしゆう）	一長一短	（いっちちよういったん）	一朝一夕	（いっちちよういっせき）

問7 慣用句の問題

慣用句は文字通りの意味ではなく、別な意味で慣用的に使われる言葉で、体の一部や、生き物の名前を表す言葉を用いていることも多い。次の慣用句の意味を調べてみよう。

身体の一部を示す言葉を用いた慣用句

首をつっこむ	首を長くする	足が出る	足が早い	頭をかかえる	頭を冷やす
腕が上がる	腕が鳴る	口が重い	口が軽い	腰 <small>こし</small> が重い	腰が低い
手がかかる	手を広げる	鼻が高い	鼻につく	腹を決める	腹を割る
耳が痛い	耳が早い	胸が痛む	胸がすく	目が高い	目と鼻の先

問8 ことわざの問題

ことわざとは、人生に役立つ教訓やいましめ、生活の知恵を示した言葉。類似の意味を持つことわざも多い。意味も考えながら学習したい。

次にあげたのは類似の意味を持つことわざ。意味を調べよう。

弘法 <small>こうぼう</small> にも筆の誤り <small>あやま</small>	猫 <small>ねこ</small> に小判 <small>こばん</small>	馬 <small>うま</small> の耳 <small>みみ</small> に念仏 <small>ねんぶつ</small>	のれんに腕押し
河童 <small>かっぱ</small> の川流れ	豚 <small>ぶた</small> に真珠 <small>しんじゆ</small>	馬耳東風 <small>ばじとうふう</small>	豆腐 <small>とうふ</small> にかすがい
猿 <small>さる</small> も木から落ちる			ぬかに釘 <small>くぎ</small>



問 1 漢字の書き取りの問題

訓読みの漢字の書き取りは正答率が低い傾向にあるので、送りがなも意識して学習すべき。

問 2 語句の意味の問題

「所作（しよさ）」は「行い、身のこなし、しぐさ」という意味である。選択肢はすべて「作」という漢字をふくんだ言葉であるが、「動作」以外の「作」は「作る」「作品」という意味を持つ。

問 3 語句の意味・慣用句の問題

生き物の名を用いた慣用句

負け犬の遠ぼえ	馬が合う	蚊の鳴くよう	きつねにつままれる	くもの子を散らす
すずめの涙	鶴の一声	虎の子	猫の手も借りたい	猫の額
掃き溜めに鶴	袋のねずみ	虫がいい	虫が知らせる	虫の居所が悪い
いばらの道	馬の骨	瓜二つ	根も葉もない	話に花が咲く
花を持たせる	実を結ぶ	芽が出る	月とすっぽん	雨後の竹の子

問 4・6 和語の問題

問 4 の「くをえ（得）ない」とは、前の語に対して、「それがない」または、「それができない」という意味である。たとえば、「行かざるをえない」とは、「ざる」が「ない」という意味であるから、「行かないということができない」「行かないわけにはいかない」という意味となる。

問 6 の「見よう見まね」とは「人のするのを見て、そのままをすること」という意味である。この言葉は、本文を読解する上でのキーワードとも言える。

問5 漢字の筆順の問題

正しい筆順で書くと「筆の流れ」で漢字の形を覚えやすく、書きやすいだけでなく、文字のバランスもとれる。

漢字の筆順の原則は次の通りである。(ただし、例外もある。)

- ① 上から下へ
言 ↓、 一 二 三 言
- ② 左から右へ
川 ↓、 川 川
- ③ 横画から縦画へ
土 ↓、 十 土
▼例外 座
- ④ 中から左・右へ
小 ↓、 小 小
▼例外 非・巾
- ⑤ 貫く縦・横画は最後に
子 ↓、 了 子
▼例外 世
- ⑥ 左のはらいから右のはらいへ
文 ↓、 一 二 文
▼例外 世
- ⑦ によろをふくむ字
によろが後 近・建
によろが先 起・勉
- ⑧ かまえをふくむ字
外側が先 国・同
内側が先 区・臣
- ⑨ 横画と左はらい
横画が先 左・友・存
左はらいが先 右・有・布
- ⑩ 「、」は最後
犬 ↓、 一 二 犬
▼例外 博

1 「希」は「布」と同じ決まりに従って書く漢字。横画と左はらいの間がせまい漢字は払いを先に書く。

左はらいが先

→ 右 布

横画が先

→ 左

せまい

広い

2 「方」は「筆順の原則」では説明ができないが、最後の画が払いの部分となる。「万」も同じ。

筆順をまちがえやすい漢字

書 何 飛 成 万 臣 左 右 有 収

問7 係り受けの問題

「決してくはない」「もしくはならば」「ぜんぜんくはない」「たとえても」「まさかくまい（ないだろう）」などという形で「係り受け」が決まっている言葉がある。問題は「……ない」とあるので「まったく」が係り受けとして適当。

例年、一五〇〇〜二〇〇〇字程度の文章の読解問題を出题しているが、今回は、一八〇〇字程度の文章。

「心の哲学」を専門としている信原幸弘の評論、『「覚える」と「わかる」 知の仕組みとその可能性』（ちくまプリマー新書）からの出題である。リード文にあるように、「学ぶことはまねることから始まる」ことを述べた□の問題文に続く文章。□の本文の内容をまとめると、次のようになる。

【要約】

学ぶために試しにやってみた、先生の技のまねがうまくいったかどうかかわかれば、うまくいったまねは強化され、そうでないまねは抑制されて、やがてきちんとまねができるようになる。まねがうまくいけば快い感じがし（うまくいった信号があり）、先生にも誉められる（うまくいったという指摘がある）ので、まねの良し悪しがわかり、学習はよく進む。多くの部分からなる複雑な技をまねしようとする場合は、学習がなかなか進まないが、技全体のまねの良し悪しではなく、技の各部分のまねの良し悪しを自分で感じ取り、先生にもどこが良く、どこが悪いかが指摘を受けると、まねの学習が効率的に進む。

問1 言葉の意味の問題

いずれも和語の語意。

言葉の意味がわからない場合は、選択肢の意味が文脈に合っているか考えて答えを出す。問題や選択肢の言葉がプラス（良いイメージ・肯定的なイメージ）か、マイナス（悪いイメージ・否定的なイメージ）の言葉かを分類してみるのも良い。例えば①②は「やみくもに試行錯誤を重ねるだけでは、まねの習得すらおぼつかない」とあり、一文の中の「だけでは」「すら」から考えると①②ともマイナスのイメージの言葉ととらえられるので、選択肢もしぼられる。

問2 指示語の内容を問う問題

原則として、「それ」「その」「これ」「この」のような指示語はそれよりも前の部分を指し示す言葉であるが、指示語をふくむ文、またその前後の文が読解の上で大切である。次に、指示語「それ」をふくむ文を挙げる。

師匠の技を見てそのまねをしようとするとき、それがうまくいったかどうかもわからずに、ただまねっぽいことを繰り返すだけでは、おそらくまねの習得は不可能であろう。

まず、この一文から「それ」が指すのは簡潔に言えば「まね」。問題文に「十字以内で」とあるので「まね」について説明を加える。同じ文中の「師匠の技を見てそのまねをしようとするとき」という部分から、「まね」は「師匠の技」の「まね」と言える。

問3 文脈をとらえる問題

「そのような信号や指摘」とは、直前にある「試しにやってみたこと」にたいする良し悪しの信号や指摘を指す。では、「試しにやってみたこと」とは何かを考えてみよう。「試しにやってみたこと」とは本文6行目にあるように、「試しにやってみたまね」と言える。ここから、「信号」「指摘」についてまとめると次のようになる。

「試しにやってみたまねにたいする良し悪し」を「快／不快」として「示す」ものが「信号」。

「試しにやってみたまねにたいする良し悪し」の先生（他者）の「判断」による「称赞」「叱責」が「指摘」。

本文と問題文を照らし合わせてみよう。

【本文】

(6行目) では、**試しにやってみたまね**がうまくいったかどうかは、どのようにしてわかるのだろうか。じつさいにまねをしてみたとき、うまくいけば、なんとなく**快い**感じがし、そうでないときは、ぎこちなく**不快な**感じがすることがある。

【問題文】

じつさいにまねをしてみたとき、うまくいけば
(ア 二字) 感じがし、うまくいかないときは
(イ 三字) 感じがすることがある。

(8行目) このように快／不快が生じる場合は、それが良し悪しを示す「信号」になる。この「信号」にもとづいて、快く感じるまねは強化され、不快に感じるまねは抑制される。

しかし、試しにやってみたときに快／不快の感じがまったく生じない場合もある。たとえば、体育の先生のまねをして逆上がりの練習をしているとき、うまくいくかどうかにかかわらず、心地よいとも、心地悪いとも感じないでしょう。このような場合は、先生に「良し悪し」の判断をしてもらえない。つまり、うまくいったときは、先生が誉め、そうでないときは、注意する。

(13行目)

このような外からの「指摘」

にもとづいて

称賛されたまねは強化され、叱責されたまねは抑制される。

このように「試しにやってみたこと」にたいする「良し悪し」の「信号」や「指摘」があれば、ふつうまねの学習はよく進む。

しかし、² そのような「信号」や「指摘」があっても、まねの学習が容易に進まない場合もある。

この感じ方が、(ウ 八字) まねの (エ 四字) を示す「信号」である。

また、快／不快の感じがまったく生じない場合に必要なのは、

うまくいったときは

(オ 二字) され、そうでないときは叱責されるというような、他者からの「指摘」である。

「指摘」は他者による (エ) の判断にもとづく。

問4 本文の内容・筆者の主張をとらえる問題

選択肢は「全体」「部分」という対義語の組み合わせである。

「どの」②が悪かったのか」「いくつかの」③に分ける」とあるため、②③は明らかに「部分」が入る。選択肢が②③が「部分」となっているのはイしかなないのでこれが正しい答え。

① ② が含まれる段落では、

① としてうまくいかなかったことがわかって、どの ②部分 が悪かったのかがよくわからないことがある。そうすると、学習がなかなか進まない

とあり、「学習がなかなか進まない」場合について述べられる。次の段落には、これとは逆に「学習の効率が大幅に上がる」場合について述べられている。

(8ページ 3行目)

動作全体の悪さだけではなく、それぞれの部分の良し悪しも感じ取れるとすると、悪い部分を変更して良い部分をそのままにすることが可能となり、学習の効率は大幅に上がる。

ここから、①は「全体」が入ることがわかる。

また、③ ④ について見てみよう。

(8ページ 7行目)

先生から指摘を受ける場合でも、どこが良く、どこが悪いかを言ってもらえず、ただ全体として良い、悪いと言われるだけでは、学習はなかなか進まない。

(8ページ 9行目)

先生のほうも、けっして意地悪なわけではなく、技をいくつかの③部分にうまく分けることができなかったため、④として評価するほかないのかもしれない。

この二つの文は主体(だれが)が変わっただけでほぼ同じことを言っている。

「先生が、技の各部分の良し悪しの指摘ではなく、全体としての良し悪しの指摘(評価)をするだけでは、まねの学習はなかなか進まない。」と述べている。つまり、④には「全体」が入る。

問5 文脈をとらえる問題・筆者の主張をとらえる問題

③ それが、感じ取れれば、 複雑な技であっても、模倣の学習は効率的に進む。

ここから、「複雑な技であっても、模倣の学習は効率的に進む」には「それが、感じ取れること」が必要であると簡単な答えを導くことが出来るが、「それ」を明らかにする必要がある。

「複雑な技をまねる場合は、全体の良し悪しだけでなく、各部分の良し悪しも感じ取れることが望ましい。

③ それが、感じ取れれば、 複雑な技であっても、模倣の学習は効率的に進む。

「それ」とは、直前の文の「全体の良し悪しだけでなく、各部分の良し悪し」。ここから「全体の良し悪しだけでなく、各部分の良し悪しを感じ取れること。」という答えを作ることができる。ただし、この答えでは字数が足りない。答えの中の「全体」「各部分」とは何か説明している5段落目の中に、「多くの部分からなる複雑な技」「そのまねも多くの部分からなる」という記述がある。問題の条件に「複雑な技」「まね」を使うというものがあるため、これらをまとめる。

【解答例】

「多くの部分からなる複雑な技のまねにおいて、まねの全体の良し悪しだけでなく、各部分の良し悪しを感じ取れること。」

以上の解説の通り、記述の解答をまとめるときは、短い解答を作り、そこに各部分の説明を加えていくという方法がある。また、こういった記述の解答は文末まで書ききつて「く。」と句点を付けること。「。 (句点)」が無ければ、文が完結していないとみなされ、採点されなかったり、減点されたりするので注意しよう。

問6 文脈をとらえる問題・筆者の主張をとらえる問題・キーワードをとらえる問題

正解は

ア 先生の技をまねようと試行錯誤する中、自分でうまくいったとわかったこと、先生に誉められたことが定着し、やがてまねの習得につながっていく。

ウ テニスの技を習得する時、テニスは様々な動作が組み合わされていると意識し、それぞれの動作ができたかできていないかわかると適切な修正ができる。

であるが、アは本文の前半の要約、ウは後ろから3段落目の要約にもなっている。

次のものは、――部分が本文で述べられていない内容。

イ 技のまねの習得は、どんな技でもおおざっぱにまねることを大切にし、どこが良くどこが悪いかを見極める判断は自分でせず、先生にまかせた方が良い。

エ 先生に誉められた経験は心地よく、認められたという快い感じによって学習する意欲がどんどんわくだけでなく、周囲の人にその学びを広げてみたくなる。

オ うまくまねができなかったことへの先生の注意を、不快だとも、ありがたいとも感じなければ、先生の技をまねるのに何年もかかってしまうことになる。